

私たちが目指すもの

私たちは、北アルプスの自然の恵みと、その恩恵を受けた松本と高山に根付くこの地域を、一つの観光圏として捉えたときに、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地経営によって、地域の価値が向上し、持続的な発展につながるものと考えます。観光産業をエンジンとして、この地域社会の持続性を高め、50年、100年先の未来のためのエコシステムの形成（＝高付加価値な観光地域づくり）を目指します。



乗鞍高原

Topics 1

高付加価値旅行者（インバウンド）の利用を想定したシームレスな移動の可能性の検証を行いました！

【目的と実施方針】

2023年度策定したマスタープランでは、国際空港から松本・高山までの一次交通としてのアクセス、および松本市あるいは高山市から山岳エリア等への二次交通としての移動手段の制限を課題として取り上げ、これまで交通事業者を中心に取組方針について協議を重ねてきました。

その後、地域内外の交通・旅行事業者への現状と課題をヒアリングし、今年度の取組を、一次・二次交通におけるシームレスな移動の可能性と付加価値効果について調査・検証する事としました。

○目的

マスタープランにおける一次交通・二次交通の課題、取組方針

○事前調査

松本・高山や都内を拠点とする交通・旅行事業者（全15者）へヒアリング

○今年度の実証内容と検証項目

プライベートジェット（PJ）とヘリによる時間短縮効果・付加価値効果
および手荷物配送の課題解決に向けた検証



Michi & Co社による
プライベートジェット実証の様子

【実施内容・成果】

高付加価値旅行者を取り扱うMichi & Co社に参加頂き、一次交通に関して、大きく3つの事業を実施・体験することで、受入事業者と旅行者の2つの視点で検証しました。

1. 松本ー東京（羽田）間をプライベートジェット（PJ）で移動

現状の公共交通機関では、松本～(特急あずさ)～新宿～(JR等)～羽田の鉄道移動にかかる時間は約180分に対し、PJを利用する場合は、松本駅～松本空港～搭乗約80分～羽田空港の移動時間は約130分。

- ・PJ利用の場合、空港までの移動時間、離発着許可のための待機時間が合計約50分かかり、参加者からは、今回の利用区間の場合、時間短縮効果は大きくないとの意見がありました。
- ・参加者からは、80分の飛行時間であっても機内サービスやエンターテインメント性の向上などの機内環境の向上が求められました。
- ・羽田空港と松本空港ではハイヤーの横付けが滞りなく可能であることが実証できました。

2. 名古屋（セントレア）ー高山間をヘリで移動

現状の公共交通機関では、セントレアから高山駅まで、バスと鉄道による公共交通機関および車での移動はいずれも約3時間のところ、セントレア～飛騨エアパーク～高山市内のヘリと車による移動時間は約80分（これにセントレアでの乗り継ぎ時間を加えたとしても時間短縮効果があった）。

- ・搭乗者からは、50分の飛行時間中にトイレが無いこと、会話がしづらいことが指摘されました。
- ・セントレアではハイヤーの横付けが滞りなく可能であることが実証できました。
- ・手荷物スペースが狭く、量によっては別送する必要がある、公共交通機関利用と比較すると速達性は向上しますが、荷物移動に時間を要するため、早めの発送体制の必要性が示唆されました。

3. 総括・今後の方向性

PJとヘリいずれにしても、移動手段としては大きな課題はなく実現可能であること、一方で高付加価値層を迎えるにあたっては、単なる移動手段ではなく例えば特別な景色等、コンテンツとして付加価値を高める必要性も示唆されました。今後はこれらの対策を検討するとともに、空路以外の移動手段や二次交通の向上も検討してまいります。

Topics 2

松本・高山地域のブランドブックができました！

本誌制作の目的：北アルプスの自然の恵みとその恩恵を受けた Kita Alps Traverse Routeの価値（コアバリュー）を旅人目線で可視化し、特に高付加価値マーケットへの本エリア来訪の動機付けとして活用。

主な用途：海外マーケット（エージェント）との商談、地域内関係者同士での意識共有（コミュニケーション）等

主な内容：本エリアの旅人視点での来訪価値を「歴史・文化」「芸術・職人」「食体験」「自然・アウトドア」「癒し・ウェルネス」のカテゴリに分けて表現。制作は海外クリエイティブチームに委託し当会が監修。



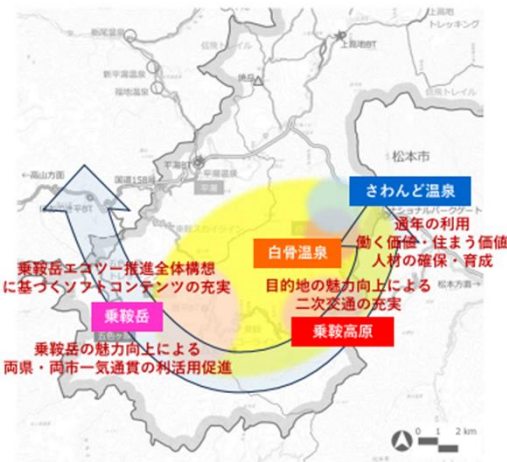
Topics 3

「国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業」 中部山岳国立公園における利用拠点の選定について

環境省では、国立公園満喫プロジェクトの更なる展開として、「宿泊事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針」に基づき、令和5年8月に「国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業」の対象とする4つの国立公園を選定・公表し、そのうちの1つである中部山岳国立公園（南部地域）において、令和5年度以降、地域の関係者等と連携しながら利用の高付加価値化に向けた基本構想の検討を行ってきました。

その過程において、①推進体制の構築②国立公園としての滞在型・高付加価値観光推進のポテンシャル等を選定理由とし、この度、「乗鞍岳・乗鞍高原・白骨温泉・さわんど温泉地区」を利用拠点名として選定することに至りました。

環境省では、引き続き地域の関係者等と連携し、利用拠点マスタープラン等の策定、地域協働実施体制の構築、自然体験アクティビティとの連携、国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設の誘致、保護と利用の好循環の仕組みづくり等の取組を進め、滞在体験の魅力向上を図ります。



詳細は以下、環境省のウェブサイトへ

中部山岳国立公園 先端モデル事業 検索

https://www.env.go.jp/press/press_03893.html

Voice < 地域の声 >

この地域で活躍されている方々に、地域産業の高付加価値化の取組事例や外国人旅行者への思いを聞いてみました！

文化や地域への興味があったり、また逆に地域への興味の先で品物に出会うというような、関心が多面化することで地域の魅力がより立体的に見えてくれば良いなと考えます。



松本市内の私たちのギャラリーを訪れる海外の方が増えました。ゲストの方々には品物だけでなくその背景や営みについて非常に興味を持ってくださいます。品物を通して生じた異文化や地域への興味で

前田木藝工房 前田大作

私たちの家業は、120年の歴史を持つ木工です。特に伝統的な日本の木工で使われる植林木材は、豊かな日本の気候風土に加え、数世代にわたる人々の手と時間によって育まれてきた背景があります。そのため、私たちのブランドではこれを「地域が育てた持続可能な素材」と位置づけています。



日下部民芸館 理事長 日下部勝
日下部民芸館が開館した昭和41年は、同時に隣接する吉島家住宅と共に国指定重要文化財の認可を受けた年でもあります。およそ60年前。インバウンドという言葉が生まれる以前の時代に、先人達、知識人、学者、文化人の方々のご尽力で、自然溢れる飛騨の景色と過度な装飾を必要としないが規律正しい飛騨の街並みが保存されながら、私達の原風景が守られてきました。またそこに暮らす人々の営みや文化や祭事も粛々と受け継がれております。その様な背景で、今のインバウンドを考えますと、当時の先人達の先見性に敬意を表します。丁寧な保存があればこそその活用が、今の日本のインバウンドを支えていると感じております。

To be continued：次号ではILTM出展の報告等を紹介する予定です。今年も大変お世話になりました。